

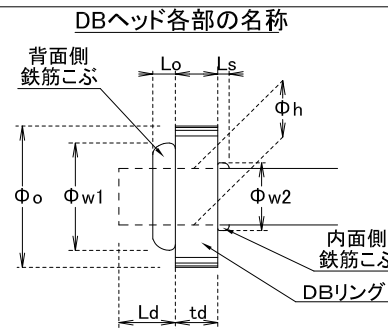
DBヘッド定着工法 RCS混合構造設計 配筋要領図

※ DBヘッド定着工法を使用する場合は、別途検定結果の確認が必要である。

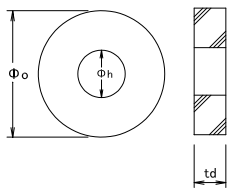
技術適用の範囲

- 構造種別**
- 鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造
 - ①のプレキャストコンクリート造
 - 柱RC梁S混合構造、柱SRC梁S混合構造
 - 鉄骨柱脚と接続する鉄筋コンクリート造
- 露出柱脚 既製品メーカー
- (a) ベースバック (b) ハイベース (c) NCベース
- 使用部位**
- 梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
 - 配載のない事項は、DBヘッド定着工法 RC 構造設計指針(2022年)を準用する。
- コンクリート**
- 普通コンクリート 21~60N/mm²
- 鉄筋**
- (鋼種)SD295 SD345 SD390 SD490 (呼び名) D16~D41
- ※ 本工法の使用に際しては、㈱ディビーエスの技術検討を受けることを基本とする。

DBヘッド各部の名称、標準寸法



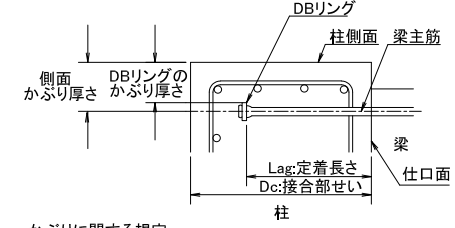
DBリング各部の名称



各部の標準寸法

鉄筋呼び名 db	背面側鉄筋ごぶ		内面側鉄筋ごぶ		DBリング		
	突出長さ Lo(mm)	直径 φw1(mm)	膨らみ長さ Ls(mm)	直径 φw2(mm)	外径 Φo (mm)	孔径 Φh (mm)	板厚 td (mm)
D16	10	24	11	19	40	18.0	10
D19	11	29	13	23	45	20.5	12
D22	13	33	15	26	55	24.0	14
D25	15	38	18	30	60	27.0	15
D29	17	44		35	70	31.0	18
D32	19	0~7	48	0~10	20	0~13	38
							38
D35	21		53				42
							42
D38	23		57				46
							46
D41	25		62				49
							49

DBヘッドの定着長さ、かぶりの定義



- かぶりに関する規定**
- 側面かぶり厚さは主筋中心より3db以上とする。
 - DBリングのかぶり厚さは建築基準法施工令第79条で定める値以上とする。
- ※ db:鉄筋呼び名の値

SRC柱梁接合部の適用範囲

貫通型定着

梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在し、かつ、直交鉄骨ウェブへの梁主筋が貫通型定着の場合とする。

非貫通型定着

梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在し、かつ、直交鉄骨ウェブへの梁主筋が非貫通型定着の場合とする。

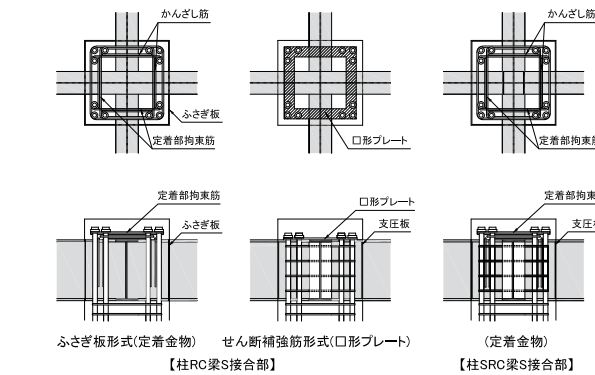
RC指針を準用

梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在しない場合、直交鉄骨ウェブへの梁主筋非貫通型定着、貫通型定着に係らず、RC柱梁接合部とみなし、RC構造設計指針4章~10章を準用する。

柱主筋定着

評価書 設計 2-5

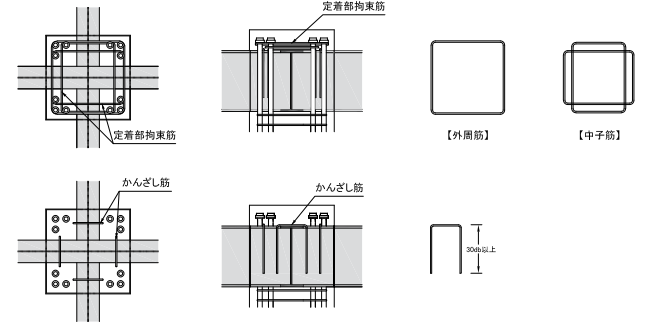
定着部構造規定



- 柱主筋定着形式**
- 柱RC梁S接合部、柱SRC梁S接合部のふさぎ板形式とせん断補強筋形式に適用する。
- 柱RC梁S接合部のせん断補強筋形式では、口形プレートと定着金物を併用した柱主筋定着とする。

- 柱主筋定着**
- ふさぎ板の厚さは6mm以上、かつ、柱せいDcの1/125以上とする。
 - せん断補強筋形式の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.2%以上とする。
 - 柱主筋の定着長さLacは、梁鉄骨下フランジ下面から21db以上、かつ、必要定着長さLab(*1)以上とする。
- ※ 1: 一般社団法人建築構造技術支援機構 評価17-05R2設計指針4.2節により計算される必要定着長さである。

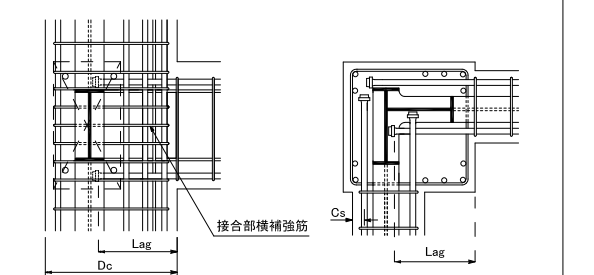
定着部拘束筋・かんざし筋



- 柱梁接合部内の梁鉄骨上フランジを跨ぐように、1組以上のかんざし筋を配置する。
- X,Y方向ともに、かんざし筋比pjvw \geq 0.15%のかんざし筋を配置する。
- かんざし筋の足部の長さは30db以上とする。

SRC, T形接合部

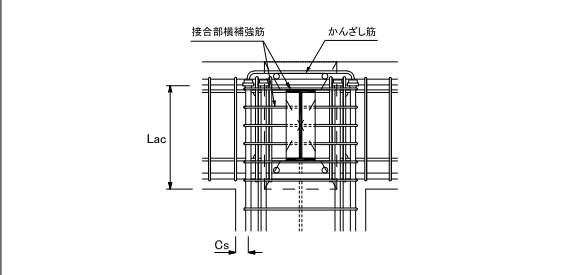
評価書 設計 1-17



- 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.2%とする。梁主筋定着長さLag \geq (Lao(*), 12db, (1/2)Dc)とする。ただし、出隅柱梁接合部では、Lag \geq (2/3)Dcかつ鉄骨フランジとウェブで囲まれた鉄骨コアの範囲に定着金物を配置し、出隅側では、梁上下主筋定着長さはできるだけ長くする。
 - 貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.1%とする。梁主筋定着長さはLag \geq (12db, (1/2)Dc)とする。
 - 梁主筋中心からの側面かぶり厚さCsは、3db以上とする。
- ※ 1: 一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

SRC, T形接合部

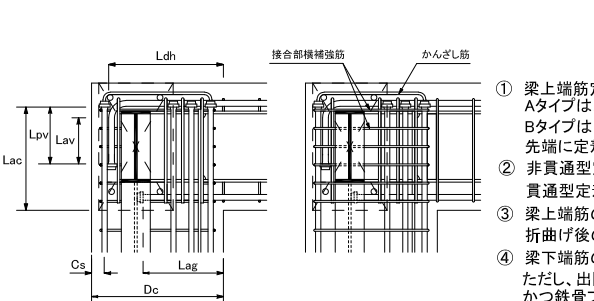
評価書 設計 1-17



- 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.2%とする。貫通型定着の場合、pjwh \geq 0.1%とする。ただし、柱主筋の定着長さLao \geq (Lao(*), 16db)かつ定着金物底面が梁鉄骨フランジ上面を超える長さとする。
 - 柱主筋中心からの側面かぶり厚さCs \geq 2db
 - XY方向ともに、かんざし筋比pjvw \geq 0.15%のかんざし筋を配置する。
- ※ 1: 一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

SRC, L形接合部

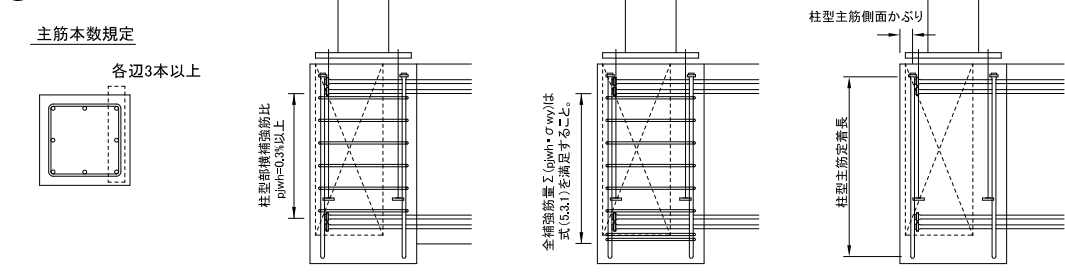
評価書 設計 1-18



- 梁上端筋定着はAタイプまたはBタイプの定着法とする。Aタイプは、余長部曲げ終点からの定着長さLavはJASS5の直線定着長さL2以上とする。Bタイプは、余長部曲げ終点からの定着長さLav \geq 10db以上とし先端に定着金物を装着する。
 - 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.2%とする。貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh \geq 0.1%とする。
 - 梁上端筋の投影定着長さLdh \geq (Lao(*), 16db, (3/4)Dc)とする。折曲げ後の余長は、RC構造設計指針8.3節による。
 - 梁下端筋の定着長さLag \geq (Lao(*), 14db, (1/2)Dc)とする。ただし、出隅柱梁接合部では、Lag \geq (2/3)Dcとしかつ鉄骨フランジとウェブで囲まれた鉄骨コアの範囲に定着金物を配置し、出隅側では、梁上下主筋定着長さはできるだけ長くする。
 - 接合部横補強筋比、柱主筋定着長さ、側面かぶり厚さ、かんざし筋の規定は、SRCのT形接合部に準ずる。
- ※ 1: 一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

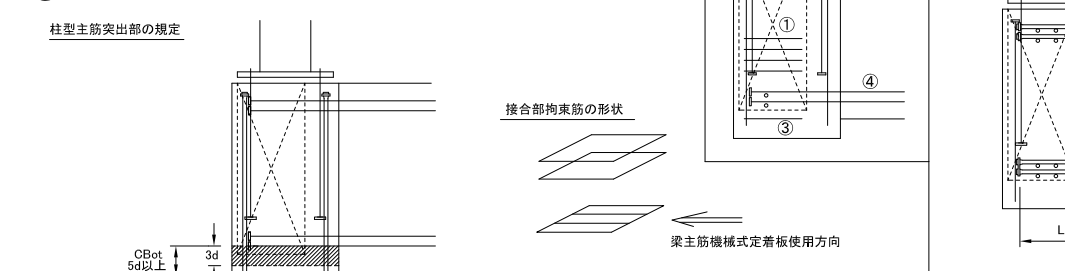
鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着

① 柱型部



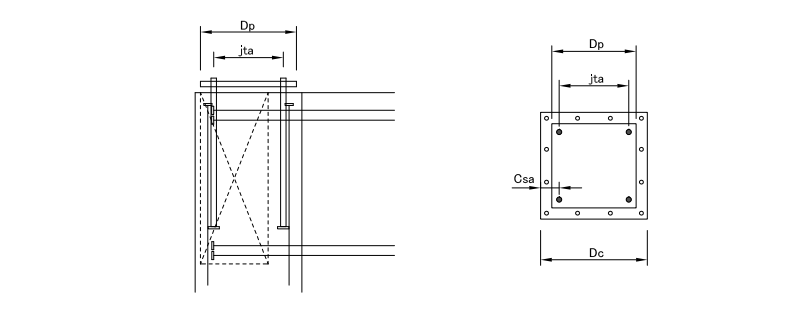
- 主筋本数規定**
- 各辺3本以上
- 横補強筋比の規定**
- 柱型部横補強筋比pjwh \geq 0.3%以上
- 全補強筋量の規定**
- 全補強筋量 \geq (pjwh+ σ w)は式(5.3.1)を満足すること。
- 柱型主筋の定着長さ・かぶり規定**
- 柱型主筋側面かぶり
- 柱型主筋定着長さ
- 柱型主筋突出部

③ 柱型主筋突出部



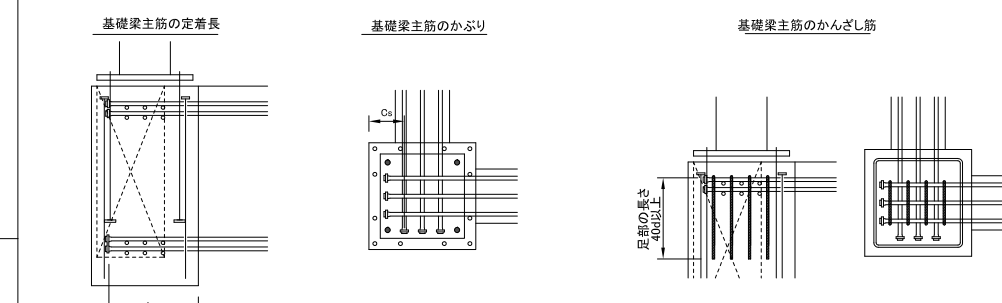
- 基礎梁下端筋(1段筋)中心から突出長さCBotは、柱型主筋下端が定着金物付きたり90°フック定着の場合3d以上、突出長さ3d以内に2組以上の外周筋または1組以上の中子筋併用の定着部拘束筋を配置する。
- ※ 1: 一般社団法人建築構造技術支援機構 評価11-03R6 RC構造設計指針5.3式(5.3.1)を満足すること。

② アンカーボルト



- アンカーボルトの定着はメーカー仕様とする。
 - アンカーボルト中心から柱型側面かぶり厚さCsaは4da以上とする。
- ※ jta: 最外縁アンカーボルト中心間距離
da: アンカーボルト軸部の直径

④ 基礎梁主筋定着部



- 基礎梁主筋定着長さLagは、上端筋、下端筋ともにLag \geq (Lao(*), 16db, (Dc + jta)/2, (3/4)Dc)以上とし、Lao(*): 評価11-03-R6 RC構造設計指針 8.1節(1)と同様、必要定着長さLaoの上限は25dbとする。Dc: 柱型せい jta: 最外縁アンカーボルト中心間距離 db: 基礎梁主筋呼び名の値
 - 基礎梁主筋中心から柱型側面までの側面かぶり厚さCsは3db以上とする。
 - 梁主筋先端の定着金物各部のかぶり厚さは、JASS 5の設計かぶり厚さ以上とする。
 - 柱型部仕口面から埋め込まれた基礎梁上端筋定着部の上部には、pjvw \geq 0.10%のかんざし筋を配置する。ただし、基礎梁上端筋定着部は上部側(2次側)だけとしてもよい。pjvw: かんざし筋比 また、かんざし筋は、D10以上かつSD295, SD345, SD390のいずれかの異形鉄筋とし、足部の全長は40d以上とする。d: かんざし筋呼び名の値
- ※ jta区間外は最下端1段筋は折り曲げとする。